

東身延本覚寺 鎌倉市小町 1-12-12

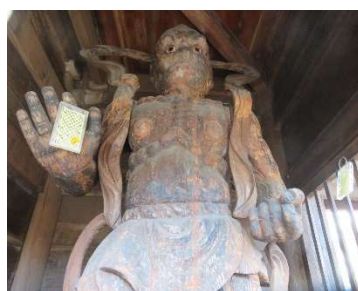
日蓮宗寺院の本覚寺は、妙巖山と号し、東身延とも称される日蓮宗由緒寺院です。鎌倉公方・足利持氏が開基、日出上人が開山となって永享 8 年（1436）当地に創建、後北条氏歴代の外護を受け、徳川家康より朱印状を受領しています。当地は、鎌倉幕府の裏鬼門にあたり、源頼朝が夷堂を創建したとされ、日蓮が佐渡配流後より鎌倉に戻り、布教を再開した際の居所ともなっていたといえます。二代目住職の日朝が、身延山から日蓮の骨を分けたので「東身延」と呼ばれています。日朝は「眼を治す仏」といわれ、本覚寺は眼病に効く寺「日朝さま」の愛称で知られています。



一般道から直ぐに山門がある



山門の左右に仁王像がいる



参道から本堂へ



手水舎は坊さんが4隅を担いでいる



本堂



本堂の彫刻



日蓮上人分骨堂